

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	ストーマ造設患者の長期入院に及ぼす要因分析
研究責任者	聖隷浜松病院 看護部管理室 大杉純子
研究実施体制	院内
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2027年1月31日
対象者	2025年4月から2026年3月までの間に聖隷浜松病院に入院しストーマを造設した患者さん。小児と術後早期にお亡くなりになられた方は除きます。
研究の意義・目的	当院では、2025年度82件のストーマ造設術を行い、患者さんは65歳以上が7割を占めました。高齢のストーマ造設患者さんの増加や家族形態の変化、術後回復遅延により長期入院を要することがあります。長期入院は、ストーマ造設患者さんの精神的負担や生活の質の低下に直結するため、術後早期に元の生活に戻ることが出来るよう支援したいと考えています。 本研究は、ストーマ造設患者さんを対象に、長期入院（在院日数）に与える要因を、「身体」「社会」「セルフケア」「医療者の介入体制」の4つの視点から振り返り、ケアを向上することを目的に行います。
研究の方法	対象患者さんについて、診療録から以下の項目の調査を行います。 身体的視点：年齢、性別、BMI、原疾患、術式、術後ストーマ早期合併症の有無、日常生活自立度、認知機能 社会的視点：家族背景、退院先希望、社会資源活用有無 セルフケア視点：ストーマ受容、手技獲得までの日数、視力低下有無、手指巧緻性 医療者の介入体制の視点：皮膚・排泄ケア認定看護師、ストーマリハビリテーション講習会終了者の介入有無と内容
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 看護部管理室 (氏名) 大杉純子 (電話)053-474-2222 (代表) 9:00~17:00(平日)